

2012 年度日本木材学会中部支部大会（三重）実施報告

中部支部大会（三重）実行委員長

三重大学大学院生物資源学研究所 鈴木直之

2012 年度日本木材学会中部支部大会が 9 月 27 日、28 日の両日三重県伊勢市において開催されました。

1 日目の会場は県営サンアリーナで、11 時 30 分より約 1 時間の予定で評議員会、13 時から 2 会場で口頭発表（21 件）、16 時 15 分～17 時まで展示発表（14 件）、17 時 30 分より県営サンアリーナ内のレストラン「いー菜」で懇親会が行われました。評議員会では中部支部役員の交替、次期支部長などの人選、2013 年度支部大会（富山）の計画、昨年度より行われた優秀発表者の表彰制度に関しての申し合わせ（案）について審議されました。最後の議事で優秀発表者の表彰制度における選考委員会の選考委員長には支部大会の実行委員長が就任することになっていましたが、今大会では実行委員会の担当者が極めて少数であったため、例外的に棚橋支部長にお願いすることになりました。棚橋支部長には大変ご迷惑をおかけしました。午後の研究発表の参加者は 68 名（一般 37 名、学生 31 名）でした。木材学会本部の服部学会会長には遠路はるばるかけつけてくださいました。誠にありがとうございました。また、業界紙ウッドミックの取材のために記者の杉浦さん 1 名も参加していただきました。懇親会の参加者は 33 名（一般 23 名、学生 10 名）でした。服部学会会長のご挨拶のあと歓談に移りましたが、レストランの代表の方の料理についての説明（すべて地元材料により作られているとのこと）や棚橋支部長からの優秀発表者の発表（下部に記載）などがあり、予定の 2 時間があつという間に過ぎてしまったように思われました。

2 日目の見学会は 10 時より 11 時 30 分までセルロース学会東海支部と合同で伊勢神宮外宮において行われました。木材学会中部支部関係で 49 名の参加があり、平成 25 年に式年遷宮が行われる伊勢神宮の御用材の加工施設である山田工作所の見学と外宮正殿参拝後、せんぐう館（資料館）に入館後、現地解散しました。

今回の支部大会の参加費につきまして、参加者があまり多く見込めないこと、場合によってはシャトルバスの運行も必要になることが考えられたため、今大会の参加費を一般 5,000 円、学生 2,000 円と例年と比べて高く設定いたしましたこと、なにとぞご容赦願います。

なお、次回の中部支部大会は富山で開催されることになりました。

優秀発表者（発表者○印の方が受賞）

口頭発表

A4 静岡県産スギ・ヒノキ“B材”原木を原料とした複合木質構造材の開発

（静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター）○池田潔彦、星川健史、渡井純

B6 反応速度論による木材の疲労強度解析

（名大農）○大矢彩加、佐々木康寿、山崎真理子

展示発表

P3 エックス線回折測定を用いた木材細胞壁の微細領域に存在する成長応力の検出

（名大院生命農）○鳥羽景介、吉田正人、山本浩之

P4 ケヤキ材の経年による材質変化

（名大院生命農）○松尾美幸（京大生存研）梅村研二、川井秀一